2023年 2月号

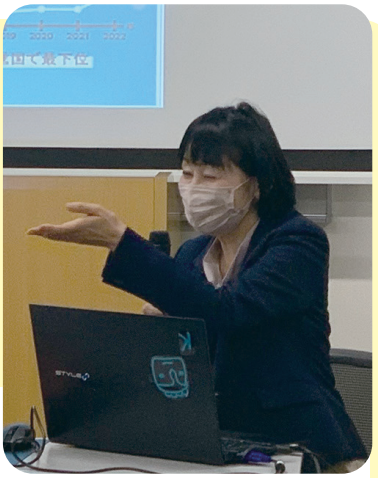
匹田くみこ 市議会たより

まだまだ寒いですが
春の訪れを待ちながら
元気に過ごしましょう。
心も身体もご自愛ください。

暮らしは政治。安心して暮らせる地域のあり方をみなさんと考えたい。

活動報告

「なぜ女性議員が増えないのか？ みんなで考えるシンポジウム」開催



11月6日、大分市で「1期目女性議員の会」主催のシンポジウムを開催しました。

日本の政治分野のジェンダーギャップ指数は146ヶ国中139位。さらに大分県の女性議員率は全国ワースト3位。女性のエンパワーメント(影響力)は、ほぼないと言ってもいい状況です。なぜでしょうか？？？

参加したみなさんの声

- 女性は「かわいい」ことを良しとされ、子どもの頃から刷り込まれる。
- 子育て・家事などは女性がするもの。政治・議会・選挙は男性の社会…との固定観念。
- 女性や若者層の不足。年配男性の意見しか通らないとあきらめている。
- 出産や子育て、家庭生活と両立できるか心配。
- 名前連呼の選挙活動に意味を感じない。
- 議員ってどうやってなればいいかわからない(方法、資金etc)。
- 議会や自治体行政が自分の生活に関係ないと思っている。
- クオータ制の導入を検討してほしい ※クオータ制とは、候補者や議席の一定数を女性に割り当てるもの。世界の60%の国や地域がすでに導入しています。

多かったのは、「政治は男の役割」という価値観が無意識のうちに存在しているという意見です。仮に志があっても、女性は立候補に必要な時間や社会的なつながり、人的な資源が持ちづらい状況にあります。

女性が必要とする施策を実現するために、また、あらゆる住民の多様な声を反映するために、**より民主的な議会**のあり方を考えていきたいですね。

2022年12月定例会一般質問

「食に関するごみ削減の取り組みについて」

【質問した背景】

臼杵市は１年前に、ユネスコ食文化創造都市に認定され大きな話題を呼びました。昨年の山形県鶴岡市（国内で最初に認定を受けた場所です）への行政視察で実感したのは、「食」が『豊かな自然環境』『充実した市民生活』『発展する産業経済』の循環の中に位置付いていることです。**持続可能な循環社会を目指すためにごみの削減は欠かせないと考えました。**

Q 食品ロスやプラスチックを減らすための取り組みは？

A 食品ロスによる廃棄で、処理にも多額の費用がかかっている。原因としては、「買いすぎによる期限切れ、消費期限と賞味期限の理解不足による廃棄」「陳列棚の後ろから取ることによる店頭での売れ残り」「外食時の食べ残し」などがある。削減のためには、食品製造業、流通業、飲食店、家庭、すべての人がそれぞれの立場で協力し進めることが必要で、以下の対策を行っている。

〇「生ごみ処理容器」の普及促進のための購入補助（購入金額の１/2）や、「３きり運動」の啓発

〇社協との連携による「フードドライブ」（家庭で余っている缶詰やレトルトを集めて必要な人に届ける）

本市のプラスチック製容器包装ごみは、ここ5年ほぼ変わらない量で推移（年間270トン）。循環型・脱炭素社会の実現に向け意識醸成のための啓発を行っている（小学生を対象にした清掃センターの社会見学や出前授業など）が、今後さらに「食」に関する資源循環を推進するために、生産から消費・廃棄に関して、環境問題を見据えた新たな情報発信の工夫を検討する。**【お答え：環境課長】**

日本における食品ロスの量は522万トン（飢餓に苦しむ人たちに向けた世界の食糧支援量の1.2倍）。私たち一人ひとりが協力し努力することが大事ですが、行政にはしっかりと方向性を示して、けん引してほしいと思います。

プラスチックごみは、焼却により温暖化に大きな影響を与えており、河川や海に流れ込み蓄積しているプラスチック（特に劣化して細かく砕かれたマイクロプラスチックと呼ばれるもの）は膨大な量で、海洋生態系にも大きな影響を与えています。大分県は全国に先がけてごみ袋有料化をスタートするなど先駆的な地域。国でも「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が2022年４月に施行されました。市民のアイデアに耳を傾けながら、市もさらなる取り組みで、環境問題に対する意識の向上を目指してほしいと思います。

- 「てまえどり」（すぐに食べるなら手前の賞味期限の短いものから買う）を心がける。
- お店での、「食べ残し」を減らす。
- 「環境に配慮した素材」のテイクアウト容器の工夫……などできないでしょうか？

地域活動における女性参加について

【質問した背景】

ここ数年で「女性の活躍推進」という言葉は浸透してきたように思いますが、現実的には様々な理由で、市役所や企業の管理職における女性登用は進んでおらず、**自治会組織においては、ほとんど女性リーダーの存在は見えていません。**人口減少が進み、高齢化率４割を超えた本市では、ますます地域の課題が複雑化、深刻化していて、女性を含めた様々な視点でアプローチすることが必要です。

2020年に閣議決定された「第５次男女共同参画基本計画」には、『地域活動における女性の活躍・男女共同参画の重要性』が明記され【2030年代には指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会を目指す】という目標が掲げられていて、そのためには社会に根強く存在する「固定的な性別役割分担意識」（いわゆる「男は仕事、女は家庭」といったステレオタイプの意識）を変えていく必要があるとしています。

Q 国の計画に沿った本市の目標設定や、自治会区長など地域における女性リーダー参画について、今後の見通しはどのようになっていますか？

A 臼杵市の計画では、「女性の活躍推進」「意識改革」「制度・環境の整備」を基本目標として取り組みを進めており、審議会などの女性委員の割合を2026年度までに60%にすることを目指している。ジェンダーの役割分担意識については、男女共同参画講演会やワークライフバランス・ハラスメントセミナーなどを実施して意識改革に努めている。市民へのアンケートで「『男は仕事・女は家庭』に賛同しない」と答えた人の割合が49%（2016年度）→59%（2021年度）と意識改革は進んでいる。

地域の女性リーダーの現状については、303地区ある中の12地区が女性区長であり全体の４%。地域振興協議会（18地域）での女性会長はゼロ。多様な人々が地域で活躍することの大切さは認識しており、今後は自治会連合会や地域振興協議会に協力をいただきながら「臼杵市自治会の手引き」を活用し、女性活躍（男女共同参画）の重要性を周知する。**【お答え：部落差別解消推進・人権啓発課長】**

女性の活躍が加速化される支援策を

他自治体の例として「女性リーダー育成の研修会」や「女性会議」を開いたり、地域の役員に一定数の女性をいれることを推奨するなど、工夫をしているところもあります。職場や地域などあらゆる場面で女性の活躍が加速化されるよう支援策を模索してほしいと思います。地域の人材不足が心配されていますが、女性や若い世代が今よりもっとリーダーシップをとることで見える地域課題や解決法も異なり、地域社会の持続性が確保されやすくなると考えます。

2022年9月定例会一般質問

「道路、公園、遊休施設」などの整備

【質問した背景】 整備された公園や市道脇の光景は、訪れた人にとっては何よりのおもてなしですし、市民の住環境として大切です。諏訪山公園については、あらゆる世代が憩い・遊び・運動する場として利用されています。市有地に生い茂る雑草の管理については、温暖化で以前より茂るのが早いという話も聞きますし、草刈りなどの人材不足や高齢化は地域共通の課題です。住民の理解や仕組みづくりの構築も含めて、行政と市民が協働で管理していくことが必要だとの思いでお聞きしました。

「臼杵市パートナーシップ宣誓制度」とジェンダーの理解を深めること

【質問した背景】 この制度は、県内他の自治体に先駆けて2021年4月にスタートしました。
「互いの個性を認め合い、多様な性や人権尊重に関する理解を深める」という市の方針を、さらに広げ深めることで、さまざまな人権意識の高まりが期待されます。市民団体や企業への周知・啓発に加えて、小中学校での取り組みや、制服について質問しました。

※中学校校長協議会においてその後検討が進み、臼杵市立中学校の制服は令和6年度から3年間かけて改定されるそうです。

「地域おこし協力隊」の現状と今後の方向性

【質問した背景】 総務省のホームページには、「地域おこし協力隊は都市地域から過疎地域等の条件不利地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発や販売・ＰＲ等の地域おこし支援や農林水産業への従事、住民支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です」とあり、高齢化や少子化、そして急激な人口減少という課題を抱える臼杵市においてはありがたい制度だと思います。しかしながら、新型コロナ感染症の影響で交流を制限されることもある中、協力隊の活動が市民から見えにくくなっているのではないかと感じました。最終的に、地域への定住・定着を図ることを目的とするなら、その存在や制度を市民に広くアピールし、地域の課題を知り活動に生かしてもらう、また活動の中から定住への糸口をしっかりつかんでいただくということが大切だと思いました。

詳しくはこちらで!!→ 会議録→ ←映像配信

臼杵チャリティーショーに出演しました!!

12月4日『臼杵チャリティーショー』が開催されました。私は議員ステージで舞踊に挑戦！着物で踊る優雅な姿に憧れていましたが、いざ自分がやってみると「優雅な姿」とは程遠く💦筋肉痛になりました。

稽古の中で意識した優しく丁寧な所作は、ふだんの暮らしの中でも活かしていきたいと思います。

感染防止対策の上で、踊りや音楽など彩り豊かなステージ発表が少しずつ戻ってきました。レッスンを積み重ねて舞台に立っているみなさんが輝いています。

何でもクリックひとつで得られ、コミュニケーションさえもインターネットに押しこめられがちな今、**表現する場**や、**人と人が集まる場**が欲しいですよね。

特に子どもたちの身体や情操の成長を考えれば、幼児～思春期にいろんな**発表の場**を経験してほしいと思います。

子育て世帯への10万円給付が始まります！ ～1月13日の専決処分で決まりました～

今回の専決処分については、12月定例会後の全員協議会で、
担当課(子ども子育て課)から説明と質疑がすでに行われていたものです。

※『専決処分』ってなに？

市長は、執行機関として、議会で決めたことしか、執行することができません。しかし、一定の場合に議決を経ずに、処分できます。この専決処分には、2種類あります

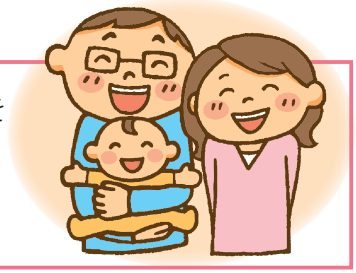
①時間的に議会の招集を待てない場合などの専決処分。議会への報告と、議会の承認が必要。
これまで例としてあった主なものは、大雨や台風による災害復旧のための緊急を要する応急措置など。

②軽微な内容で、あらかじめ議決によって指定(委任)している専決処分。議会への報告は必要だが、あらかじめ指定しているので承認は必要ない。

この給付は、国が決定した「出産・子育て応援交付金」で伴走型相談支援と経済支援がセットになっているものです。「出産子育て応援ギフト」として10万円相当を給付。各家庭にクーポンを支給し指定の育児用品や子育て支援サービスを提供する自治体もありますが、臼杵市は、現金支給です。

具体的には、

- 妊娠届出の際にアンケートに記入いただき個別面談を実施。子育てガイドを配布して出産までの見通しを一緒にたてる。その後5万円を支給。
- 妊娠8か月ごろに、希望者や要フォロー者に個別面談を実施。
- 出生後2か月ごろに乳幼児全戸訪問を実施し、残りの5万円を支給。



出産をはさんで合計4回の面談を設けて、内容によっては、必要な支援メニュー(プレ親教室、地域子育て支援拠点、産前産後ケア、一時預かりなど)につなげます。

対象者は、令和4年4月1日以降に出産された方。市内では、112人(令和4年度)が予定されています。

核家族化が進んで地域とのつながりも希薄となりさらにはコロナの影響もあって、孤立感や不安を抱く方も少なくないと思います。安心して出産から子育てができる環境を整えることは必須です。

みなさんの周りでもお困りのことや要望などあればいつでもお知らせくださいね。

まちづくりカフェ

＼どなたでもお気軽にご参加ください／
～議会の報告＋お話会～

お茶をしながら身のまわりのことをゆるりとお話ししましょう♪予約なしでもオッケーです。来る時間も帰る時間も自由。お気軽にお寄りください！

【日時】3月4日(土)12:00～15:00

【場所】ひきだくみこ事務所
(臼杵市立東中学校の横)

【お問い合わせ先】
090−1943−8056
(ヒキダ)

臼杵市大字臼杵70-16（事務所）
臼杵市井村1960番地（自宅）
TEL&FAX　0972-63-7140
メール　kuu.okok@gmail.com

ブログも見てね!!→